



第14回日本検査血液学会学術集会参加報告

会期 2013年7月27日(土)・28日(日)

会場 京王プラザホテル



1. HIV感染症と関連疾患における血液検査のかかわり

教育講演 4

講演者 山元 泰之(東京医科大学臨床検査医学講座)

報告者：脇 幸子(検査1科血液係)

エイズ動向委員会によると、2012年12月末現在、HIV感染者・AIDS発症者の累計報告者数は21,000人前後、年間報告者数はここ数年1,500人前後で横ばいの状態が続いているそうです。その一方で、年間報告者数の30%は“いきなりAIDS”と称されるAIDSを既に発症した例であり、依然として診断遅延例も多いことが指摘されました。HIV感染症の早期発見のためにはHIV検査の実施機会を拡大することが非常に重要であると力説されました。

今回はHIV感染症・AIDS診断に血液学的検査が寄与する場合についてお話いただきました。そのポイントとなるのは「血球減少」と「凝固異常」の2点です。

①血球減少

- ・貧血：CD4細胞数200以下の症例の10～25%、AIDS発症例では30～60%で認める。
- ・白血球減少：AIDS発症例の50%以上で認める。
- ・血小板減少：汎血球減少をともなわない場合も多く、未治療HIV感染例の30～60%で認める。

②凝固異常

- ・ループスアンチコアグラント(自己抗体)の保有：未治療HIV感染例の20～66%で認める。
- ・血栓溶解作用を示す成分であるプロテインSの低下を認める場合もある。

最後に演者は、2010年から2012年までの2年間における自施設でのデータを示されました。それによると、院内でHIV感染が判明した初診患者のうち、血液学的異常が診断に貢献した症例は約10%あり、最も多かった所見は血小板減少だったそうです。また、HIVを早期に診断するためには、血液学的検査異常に加えて、梅毒やB型肝炎、性器クラミジアなどHIV感染症で重複感染を起こしやすい疾患に対する検査が陽性反応を示す場合には、HIV感染症を常に視野に入れ、可能な限りHIV検査も実施すべきであることを教えていただきました。

2. 特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) の分子病態と診療の最前線

講演者 富山 佳昭(大阪大学医学部附属病院輸血部)

報告者：三坂 美里(検査1科血液係)

特発性血小板減少性紫斑病（以下 ITP）は、自分の血小板の成分に対して自己抗体（抗血小板抗体）が産生されます。この抗血小板抗体と結合した血小板は脾臓の網内系細胞に貪食されて血小板破壊が亢進する結果、血小板が減少（10万/ μ l 未満）し、出血傾向の増大をきたす自己免疫疾患です。最近では骨髄での血小板産生が障害されていることも確認されています。また、本疾患の患者数は約2万人で、慢性 ITP では20～40歳台の若年女性と60～80歳（男女差なし）の2箇所が発症のピークがあることもわかってきました。

ITP では、抗血小板抗体が血小板の膜成分のうちある特定部分を標的にすることが多いため、近年その部分に結合する抗血小板抗体を直接検出する方法も開発されましたが、手技が煩雑であるなど日常検査としてはほとんど採用されていません。したがって、現在のところ ITP の診断は依然として除外診断が中心となっているとのことでした。

次に、2012年4月に厚生労働省から治療指針として発表された「成人 ITP 治療の参照ガイド2012」について解説されました。それによると、ヘリコバクター・ピロリ菌感染者には除菌療法を行います。除菌成功例の50～60%で、血小板数が増加することが明らかになってきました。

ピロリ菌除菌無効例や非感染例では、次の段階としてステロイド薬の投与を行います。副作用が強いあるいは効果が不十分などの場合には脾臓摘出術が実施されるとのことでした。この脾臓摘出術で60～70%に根治が期待できるそうですが免疫力低下や感染症にかかりやすいなどのデメリットもあるとのことでした。

上記の治療においても効果が得にくい場合は、トロンボポエチン（以下 TPO）受容体作動薬の適応となります。現在経口薬のエルトロンボパグと皮下注製剤のロミプロスチムの2剤が承認されていますが、いずれも巨核球の増殖と分化を促し、最終的に血小板を増加させる働きがあります。このように TPO 受容体作動薬は ITP に対して優れた効果を示しますが、ITP を治す薬ではなく血小板造血刺激剤なので継続した投薬が必要です。また、血小板増加に伴い血栓症の誘発、骨髄異常の誘発など種々の副作用も考えられ、長期的な安全性はまだ確立されていないのが現状だそうです。

今後 TPO 受容体作動薬に対するエビデンスを蓄積し、適切な使用法を確立するとともに更なる治療戦略の開発を進めることが重要課題であると締めくくられました。